居残り業務の見直し
～時間外勤務の短縮～

京都大原記念病院リハビリ3病棟
髙橋　まゆみ　　谷口　巴
藤谷　衣里　　木谷　美佳

Ⅰ.はじめに

- リハビリ3病棟（以下R3病棟）はベット数47床であり、居残り業務を2名体制で行なっている。夕食時の食事介助や排泄介助、更衣等夜勤スタッフの手伝いを17：00時～19：00の2時間行なっている。この体制では居残り業務だけで月に8～10時間の時間外残業が発生し、さらに居残り業務終了後、日勤残務処理を行ったりと、スタッフの心身の負担も大きい状況にある。そこで今回、現状を少しでも改善させるべく居残り業務の見直しや時間短縮の取り組みを行なったのでその結果を報告する。

Ⅱ.方法

1.対象者：R3病棟で居残り業務を実施している職員
　　看護師　14名
　　介護職　　7名

2.方法
1）居残り業務内容・時間の見直しと周知
2）業務表の作成
3）実施後事後アンケートの実施
4）居残り業務終了状況の評価

3.実施期間：令和2年12月20日～令和3年2月現在

資料

R3　居残り業務改善案

	居残りA	（17：00～19：00）		居残りB	（17：00～18：30）
17:00	夕食準備 患者様誘導 コール対応		17:00	夕食準備 患者様誘導 コール対応	
18:00	配膳 食事介助		18:00	配膳 食事介助 マウスケア 下膳 食事量記載	
18:30	下膳 食事量チェック 義歯チェック エプロン洗浄		18:30	業務終了	
18:55	下膳カートを栄養科へ				
19:00	業務終了				

18：30～は居残り業務優先でOK!!

＊義歯洗浄は夜勤CWで対応
＊食事入力夜勤CWで対応

＊この居残り業務は1名体制で勤いている病棟のをベースとしております。

居残り者は必ずチェックをし、夜勤へ引き継ぎをし業務終了です。

◎時間内に終わるようにお互い協力しましょう。

約束事
①業務時間に余裕があるときは夜勤さんの手伝いを行うこと！
②記載忘れがあると、夜勤さんに支障が出ます。食事量・義歯チェックは必ずすること！
③時間内にどうしても終わらないような状況であれば、夜勤リーダーへ報告し指示を仰ぐこと！
④必ず引き継ぎをし業務を終える事！
⑤居残り業務は夜勤のお手伝いですので19時には終了できるように協力すること！

＜業務改善アンケート＞

職種：　看護　・　介護

1、今回、居残り業務について改善を行ってみてよかったと思いますか？

①　すごく思う　②少し思う　③どちらともいえない　④あまり思わない　⑤全く思わない

それぞれ理由をお書きください

（　　）

2　居残りA　17：00～19：00 をして
居残りBの人が先に帰ることで、負担が増えましたか？
①　すごく増えた　②少し増えた　③どちらとも言えない　④あまり変わらない　⑤全く変わらない

①　②と答えた方は、どのような負担が増えましたか？

（　　）

3　居残りB　17：00～18：30 をして
時間を30分短くしたことで負担は減りましたか？
①　すごく減った　②　少し減った　③どちらとも言えない　④あまり変わらない　⑤全く変わらない

①　②と答えた方は、どのような負担が減りましたか？

（　　）

4　夜勤者は今回の業務改善を行ったことで、負担は増えましたか？
①　すごく増えた　②少し増えた　③どちらとも言えない　④あまり変わらない　⑤全く変わらない

①　②と答えた方はどのような負担が増えましたか？

5　今回の業務改善（居残りA,B）を継続したいと思いますか？

①　思う　②少し思う　③どちらともいえない　④あまり思わない　⑤全く思わない

6　最後に、今回の業務改善を通して感じたことや思ったこと、改善点など、感想でもなんでも結構です。自由に記載してください。
他にもトライしてみたい業務改善活動などでもよいです。

ご協力ありがとうございました。

Ⅲ.方法

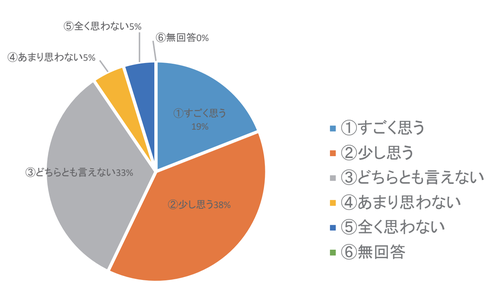
1）病棟会で今回の業務改善について説明。承認を得て居残り業務改善案（資料参照）を提示。病棟会に参加できなかったスタッフには後日出勤時に数回に分けて説明を実施した。

2）スタッフに改善案を説明後、業務表を作成。可能な限り居残りAとBが均等になるように配慮した。2名を除いては実施期間内にA,B両方の居残りを経験できた。

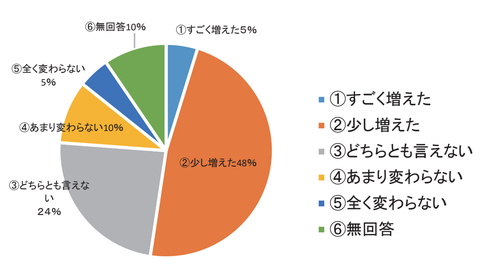
3）評価のため、1月末を一旦締めとし、アンケートを実施。
　アンケート回収率は100％（アンケート原本は資料参照）

4）実施後の居残り業務終了状況
　実施期間中2回、定めた時間に居残り業務を終了できなかったケースがあった。いずれも患者対応のためであった。
　時間数としては19時まで2人体制の時と比較し、43日間（令和2年12月20日～1月31日）で、居残り業務による時間外業務時間が**20.5時間減少**した。

アンケート結果1

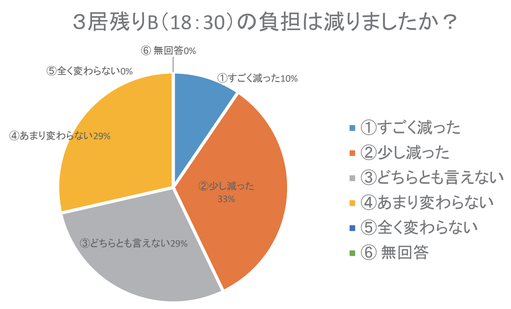


アンケート結果2

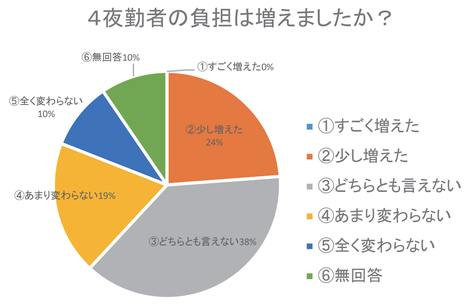


アンケート結果1では、①②合わせて57％の人が業務改善をしてよかったと答えている。思わないとの答えたのは10％にとどまっており、全体としては今回の改善をプラスに捉えている人が多いと判断できる。
2の居残りA(19時まで）の負担は増えましたか？の問いに対しては、52％の人が増えたと答えた。理由としてはメンバーに左右される、18:30以降一人のため分担が出来ない、食事介助やナースコールが多いと18:30の人が食事介助だけで終わってしまうことになり、残った業務が負担になるといった意見が多かった。

アンケート結果3

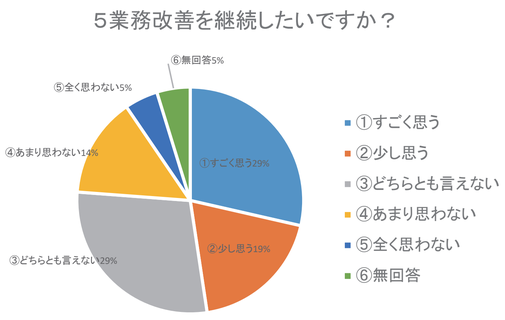


アンケート結果4



3の居残りB(18:30まで）をして、負担は減りましたかの問いでは、減ったと答えた人が①②合わせて43％、③どちらとも言えない④あまり変わらないと答えた人が共に29％で過半数を占めた。
4夜勤者の負担が増えましたかの問いでは少し増えたが24％、どちらとも言えないが38％、あまり変わらない19％、全く変わらない10％で全体としてはあまり　変化がなかったと言える。

アンケート結果5



5今回の業務改善を継続したいと思うかについては、①②の思うが合わせて48％、③どちらとも言えないが29％、4あまり思わないが14％であった。色々と負担を感じることもあるが、居残りBを導入したことで、早く帰れるようになったとの意見が多かった。そのため体も楽と感じるという意見もあった。

アンケート結果6（自由記載）

・今後は居残り1人にもトライしてみたい。
・朝の排泄介助、環境整備等にも改善の余地があるのではないか。
・居残りA/Bそれぞれに業務を進める事ができるので効率が良くなったと思う。
・他の業務をゆっくりやっている人もいるため、そこが　改善できたらいいと思う。
・居残BがAの下膳、もしくは義歯回収くらいまで終われば負担が減ると思う。
・してみて意外とできるものだと思った。食事介助が増えなければ今のままでいいと思う。
・前より時間に余裕がなくなったので少し取れていた記録時間がなくなったため、入院や転床がついてる日は居残りは被せないでほしい。
・コールの多い日など、居残りAの人に申し訳ない気持ちになる。
・食事介助が多い日などは2人とも19：00までででいいと思う。その時の状況によって変更可能ならいいと思う。
・B残りの人が食事介助だけで終わっていた人もいたので辛かったです。
・メンバーによって時間通りに終わらないので改善が必要かも。
・改善前からギリギリのことが多く、改善後は時間に追われて大変に感じた。改善前の体制の方が少しゆとりを持てたように感じた。

6自由記載欄にはポジティブな意見とややネガティブな意見両方が見られた。
また、今回の取り組みをする中で、18:30まででであれば可能ということで当初の予定より居残りをする（できる）スタッフが2名増加したことは評価できる。

Ⅳ.結果

1）病棟会で今回の業務改善について説明。承認を得て居残り業務改善案（資料参照）を提示。病棟会に参加できなかったスタッフには後日出勤時に数回に分けて説明を実施した。

2）スタッフに改善案を説明後、業務表を作成。可能な限り居残りAとBが均等になるように配慮した。2名を除いては実施期間内にA,B両方の居残りを経験できた。

3）評価のため、1月末を一旦締めとし、アンケートを実施。
　アンケート回収率は100％（アンケート原本は資料参照）

4）実施後の居残り業務終了状況
　実施期間中2回、定めた時間に居残り業務を終了できなかったケースがあった。いずれも患者対応のためであった。
　時間数としては19時まで2人体制の時と比較し、43日間（令和2年12月20日～1月31日）で、居残り業務による時間外業務時間が**20.5時間減少**した。

Ⅴ.考察

　アンケートの結果と居残り業務の終了状況から考察する。居残りAの人の負担感が増えたと答えた人が多かったのに対して、居残りBの人の負担感が減少したと答えた人はやや少なく、夜勤者の負担感はあまり変化がないこと、加えて今回の取り組み実施後に居残りで時間内に終えられなかったケースが2件に留まっていることなどから、時間的には業務を終えられているが、居残りAの心理的な負担が大きい事が考えられる。また、取り組み前に居残りが実施していた業務を夜勤者に一部移行したにもかかわらず夜勤者の負担感があまり変化がないことをみると、今回の取組における夜勤者の役割がうまく機能していなかった可能性が考えられる。
　今回の取組の中でスタッフによって左右されるという意見が多かったが、そもそも違うレベル、職種がチームとして仕事をしていることへの理解や、それらを日々どのように改善・向上させていくかという課題解決能力が未熟であることが窺える。

Ⅵ.まとめ

・今回の業務改善により、時間的には期待通り一定の成果を出せた。また、これにより、居残りBについてはスタッフの負担感を一定割合軽減出来た。

・アンケート結果から、夜勤者の役割機能が果たせていないことが窺えた。再度、夜勤者、居残りの目的や業務分担を明確にしていく必要性がある。

・居残りAの負担感が大きい結果となったが、改善の余地がある。改善策を講じながらこの業務改善を継続させていく。

・今回の取り組みの中で、日頃から個々の課題やチームとしての課題に向き合う姿勢がまだ未熟であることがわかった。ネガティブな意見もあったが、時間短縮や居残り業務実施者の増加といった成果も出せており、この改善を継続する意義は十分にあると考えられる為、引き続きスタッフと協力して進めて行きたい。